

2 受けつがれる文化財^{さい}

(1) 大牟田^{たん}の石炭のれきしや昔の様子



はるかさんたちは、大牟田市の広ほう紙に、「世界遺産^い」や「近代化遺産」という言葉がたくさん出ていることに気づきました。そこで、そのことについて調べてみました。

世界遺産とは、世界中の国にある「文化に関する遺産」や「自然に関する遺産」の中で、世界的に見てとても大切なものであるとみとめられたもののことで、未来にのこすべき宝物です。

また、近代化遺産とは、江戸時代の終わりごろから、明治・大正時代にかけてつくられた工場や港、鉄道など、日本の近代化にこうけんした施設^{しせつ}のことです。

今回、平成21年度に、大牟田市にある近代化遺産の中から、「三池炭鉱^{たんこう}宮原坑跡^{こうあと}」「旧三池炭鉱専用鉄道跡^{こう}」「三池港」それに、となりの市である荒尾市にある「万田坑跡」の4つの石炭産業に関係のある近代化遺産が、世界遺産のこうほになり、世界的に大切なものであると言われるようになりました。